

学びの改革実践校 取組紹介

学びの改革支援課

■ 松本市立明善小学校の取組

～幼児期から児童期の“遊び”と“学び”の具体の姿から、園小の職員で共に学び合う～

明善小学校では、学区内の松本市立内田保育園・寿東保育園とともに、子どもの発達や学びをつなぐ円滑な園小接続の実現に向けて取組を進めている。明善小学校で特に大切にしていることは、「安心感」と「受容」。園と小学校では子どもの学習環境に違いがあり、そのことに戸惑いや不安を覚える児童も少なくない。そこで、明善小では、掲示物などの教室環境を工夫する際、園での環境づくりを参考にすることによって、分かりやすさや生活のしやすさのみでなく、園で過ごしてきた子どもたちの安心感にもつなげられるようにしている。また、日々の取組として、遊んだことや学んだこと、発見などを自由に記入できる「遊びノート（園児用）」「学びノート（児童用）」を一冊ずつ配付し、子どもの自由な表現の中から、その子の興味関心や学びの傾向性を捉え、子ども理解を進めている。さらに、園での研究保育や夏休み中の保育参観を活用し、遊びの場面を園小職員で一緒に観察することで、子どもの学びの姿を共通理解している。このほか、園から送付される保育要録を1学年職員等で読みながら、目の前の子どもたちの姿について語り合うことを通して、一人一人の育ちを把握し小学校での教育活動に活かしている。こうした取組により、児童は、園での学びを小学校の教員に理解してもらいながら、安心して学校生活に向かうことができている。また、教師にとっては、幼児期から児童期への学びの姿を連続的に捉え、その姿に即した教育活動を小学校が展開していくことにつながっている。



園小の職員でノートを見合う

■ 伊那市立伊那中学校の取組

～地域や近隣高等学校等との連携による探究・プロジェクト型学習の展開～

伊那中学校では、教科の枠にとらわれず、自分でテーマ（課題）を設定して追究する探究学習（Inachu My Challenge）に取り組んできた。しかし、教師には、「探究のテーマが決まらなかったり、テーマの目的が不明確だったりする生徒を、どう支援したらよいのか」という課題があった。そこで、生徒の興味関心の幅を広げ、探究心を刺激するために、文化祭の企画の一つとして、「探究の時間」を設け、「テーマ」に沿った探究を生徒が実際に体験する場を設けた。この企画では、興味関心を基にテーマを設定し、とことん掘り下げ追究している方々から学ぶことができるよう、伊那中生のみでなく、高校生、保護者、地域の方から講師を募った。生徒は、自分で参加する講座を選択し、学ぶこととした。



伊那北高生による「探究・研究体験」。紙飛行機の飛距離を伸ばすために、自ずと試行錯誤を繰り返す生徒たち



介護福祉士さんによる介護の疑似体験。介護が必要になっても「幸せ」を感じられることに気づき、笑顔があふれる生徒たち

当日は、テーマをもとに、講師と共に実際に試行錯誤を繰り返したり、仲間との対話により考えを広げたりするなど、個性的で魅力溢れる講座が実施された。自身のテーマに基づく追究について熱く語る講師の姿に触れたり、仲間と共に課題を解決していく体験をしたりすることは、生徒がとことん追究することの面白さや奥深さなどを実感するとともに、各自がテーマをもち、課題を掘り下げる探究の手法を学ぶ契機となった。先生たちは、生徒一人一人の中にある「探究心」が、Inachu My Challenge や日常の教科学習等の中で広がり深まるよう、生徒たちと共に探究し、伴走者となって問いかけたり助言したりしながら、生徒たちの学びを見守りたいと考えている。